

巻頭言

Journal of I-LISS Japan, 第2巻へ

志保田 務

(I-LISS Japan Chapter 会長)

国際組織 LISSASPAC が I-LISS へ改組，同・国内機構が I-LISS Japan と改称したのに伴って，機関誌を *Journal of I-LISS Japan* と改題。2018 年，改めての新刊としました。改題前誌 (*Journal of LISSASPAC*) とは巻号を引き継がず，第 1 巻 1 号から再出発し ISSN も ISSN2433-7870 と変更しました。ただし編集全般を取り仕切る委員長を大城善盛（元・同志社大学），実務を担う編集次長の任を村上幸二（奈良学園大学登美ヶ丘図書館）が継続しました。同巻第 1 号は，機関としての日本支部の設立総会の記録，組織定款（規定）の明記，構成メンバーの掲示を行い，関係行事記念講演，研究発表の内容を手堅くまとめました。新誌化の機会に，表紙をホワイト・ビニール加工紙とするなど見場を強化しました。記事的には，書き下し論文中心としました。この後，村上次長が本務煩瑣となったため，その役を岡田大輔（相愛大学）に交替しました。2018 年度内末に同巻第 2 号を刊行しましたが，担当委員の才覚で，印刷経費を格段に節約できました。その線に沿って，今年度，第 2 巻に歩み入り，ここにその第 1 号をお届けするに至りました。

本号には，3 本の論文を掲載しています。

手厚い大城善盛論文は専門職制度へ更に追究を深めています。

嶋田学論文は，大学の専任となって後おそらく直ぐの論文と推察します。教授という高位への到達にも燃え尽きることなく新規立論に及びました。学術論文作成上の制約・注文などの厄介もあったでしょうが素早く対処され，それが更なる昇華を予感せしめました。

坂下直子論文は，同氏が近時，集中的に研究しておられるフィールド，わが国学校図書館専門職域における近似対照 2 科目の分析とその結果に照らしての批判検討です。これは 1 職 2 資格制を排し確固たる専門職制度を追求するための論緒の提示と言えましょう。

当号が皆様の目に止まる時期，10 月 27 日午後，I-LISS Japan の 2019 年度研究大会が開かれます。I-LISS 国際本部長，Fredrik Ernerot スウェーデン西部学校図書館協会長をキー・スピーカーに招請しています。Ernerot 氏は，この期にクロアチアで開かれる IASL（国際学校図書館協会年次大会）からバウンドして来日の予定です。通訳は今年度から I-LISS Japan メンバーとなった中野ひかる（関西学院千里国際中学部・高等部司書教諭）等が務めます。

さらに，今年度結成された比較図書館情報学研究グループ（日本図書館研究会内）と共催し，同グループから中島幸子，大城善盛両氏の研究発表を得ます。これらの記事，研究発表は，次号，本巻第 2 号に掲載する予定としています。ご高読くださる皆様には，当誌や I-LISS へお力をお貸しいただくとともに，図書館情報学界の国際的交流に，ともにお愉しみくださるようお願いを申し上げます。